

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム 金さん銀さん(金ユニット)		
所在地	深川市音江町1丁目3番13号		
自己評価作成日	平成26年3月14日	評価結果市町村受理日	平成26年5月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0197400021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・老人クラブへの参加や学校、保育所のボランティア等を通じて地域交流の機会を確保している。
 ・家族の宿泊を受け入れる事でありのままの本人や、事業所側の支援を見てもらい、透明化を図っている。
 ・それぞれのその時の気持ちや意向を優先した対応を心掛けている。
 ・家族との情報共有に努めていて、毎月家族に発行している家族通信や通院結果の報告、支援の相談など顔の見える関係を築けるように日々努めている。
 ・認知症ケア研究会や認知症キャラバンメイトの会の役員(講師役含む)を要請により受け、事業所としての地域貢献に取り組んでいる。
 ・事業所の出来ること出来ない事をご家族に納得していただいた上で、透析患者の受け入れをしている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成26年3月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は緑豊かな閑静な住宅地にあり、鉄骨3階建て一階に介護付き老人ホームが入り、二階に2ユニットのグループホームがあり行事などで交流している。近くの銀杏並木の道や小公園は格好の散歩道として楽しむことが出来る。町内会の清掃、祭りなどの行事に参加し、保育所の運動会や学芸会、体育大会などの学校行事に多く参加し、敬老会など事業所行事に住民を招くなどの相互の交流がある。毎月「家族通信」を刊行して、利用者個々人の表情、生活の様子、健康状態が身近に伝えられる写真を中心に編集して、家族に届け家族との関係を密にしている。職員は日常の会話から利用者の思いの把握に努め、自宅に帰ってのピアノ演奏や、こぶし座を観劇するなど思いや意向の実現に努めている。利用者は今ある能力を最大限発揮して「その人らしい生活」を、家族・地域・職員に見守られながら安心、安全に送ることが出来るよう職員全員が連携して取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいたケアが実践できるように朝礼での唱和をし、意識している。	職員全員で作成した理念を事務所に掲示して毎朝唱和し共有している。又理念を記載したカードを携帯して、実践に活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	老人クラブ・町内行事・保育所・学校等、慰問等を通じて交流ができています。	町内会に加入して、町内一斉清掃活動や焼き肉パーティ、保育所運動会・中学校の体育大会に参加。地域住民を敬老会に招くなど相互の交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者がサポーター講座の役員及び講師役また、認知症ケア研究の役員を務めることで地域福祉の向上に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加している委員より活動内容についての意見を毎回頂いている。頂いた意見を周知させ、サービス向上に活かしている。	町内会長・民生委員・家族・行政・駐在所巡査などが参加して年6回開催。運営状況や利用者の状況などを報告し、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。職員による認知症に関するミニ講義を毎回実施して事業所と認知症への理解を深めるよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議に参加してもらい、ホームの実情等を積極的に伝えている。	資料提出などで担当者を訪問し、運営推進会議への出席があり、月一回市の主催で行うケア会議で意見や情報交換を行って協力や連携の関係ができています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	少人数ではあるが研修に参加し理解や知識を深めている。身体拘束をした事例は無いが、施錠については場合によっては一時的に行うことがある。	外部研修会に参加した職員が会議で報告して共有し、身体拘束をしないケアに努めている。言葉による拘束の弊害を理解して、どのような言葉かけならば拘束とならないのかを職員皆で考えている。夜間エレベーターを停止し2階事業所の施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修の参加と職員間での伝達を行っている。また、スタッフの言葉づかいには特に注意を払って、虐待に繋がらないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後研修の機会を設けて、知識として知っておく必要はあるが、実情は後見人のなりては中々見つからない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	緊急の場合ではない限り、見学をしてもらい雰囲気を知ってもらってから契約に努めている。また、十分な説明をしているが、その後も利用者・家族の声を常に聞く姿勢に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時に近況報告や要望などを聞くように努めている。必要に応じて、法人本部にも相談して反映に努めている。推進会議での意見も同様に検討している。	運営推進会議や来訪時に家族と積極的に会話を交わして意見や要望を聞き取っている。得られた情報は日誌等に記載して全職員が共有し、会議の議題として運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は常に耳を傾けることに努め、その場で答えを出したり、必要に応じて法人本部に相談し、反映につなげている。	管理者は話しやすい雰囲気に心がけ、職員とコミュニケーションをとるように心がけている。意見はユニット会議で話し合い運営に反映させている。勤務の割り振り・シフトなどの要望を聞いて、柔軟に対応しながら働きやすい職場になるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトの調整や研修費用の捻出など、配慮をいただいている面はある。また、一部の職員の希望の勤務時間・曜日など調整をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々のレベルに合った外部研修の機会を設け、個々の意欲や幹旋している状況。費用については法人に相談しているが、十分な育成期間・時間を取れていないのが現状。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	少人数ではあるが、他事業所との相互交流を行って、刺激を受けることが出来た。今後も継続して行っていけるように努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報を関係者から聞き取り、スムーズな介助やコミュニケーションが行えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	メールや電話、来訪時の暮らしぶり説明などで生活の様子を伝え、併せて要望などを聞き取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後の情報で大まかな全体像を掴み、必要なサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自然に片付け等に参加している。また、食事摂取の手伝いをしてくれる等、支えあいの場面がある。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に暮らしぶりを説明し、行動障害の状況により必要な物品の購入相談やケアの提案、過去の生活情報の聞き取り等共に支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も知人友人との外出・連絡が可能な体制を整備している。家族との外出・外泊も同様になっている。	馴染みの理・美容が月に一度訪問している。日曜礼拝へ行ったり、利用者がむかしよく見に行っていたことを聞いて「こぶし座」公演に同行するなど個々の馴染みの関係維持を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いに気配り等をし合える関係が自然に構築されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後は、接点がなくなる為相談や支援には至っていない。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	過去の生活歴や家族からの情報、困難な場合は表情や行動を参考に本人本位に検討している。	日々の生活や会話の中から、また家族から情報をもらって思いや意向の把握に努めている。たとえば家族と連携して、音楽の先生だった90才の利用者が自宅に帰ってピアノを演奏することを支援したことがある。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴は、必ず書面にしてスタッフ間で情報共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎやミーティングで話し合ったことを書面にしたり、連絡帳を活用して必要な情報を共有できるように努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じてミーティングで話し合い、実行している。	利用者や家族の希望を聞いて、ユニット会議で協議・検討して3ヶ月ごとに介護計画を見直し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録・計画書の書式を見直しをして、ケアプランに添った支援・記録に努めている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方から来る家族には、意向確認した上でホームへの宿泊してもらうなど、ストレスや家族の繋がりを大切にできるように取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	併設施設で開催される慰問などに参加させてもらい、楽しみに繋げている。また、配偶者も入居していることから連絡を取り合い、夫婦関係を支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に診てもらうことを基本として、市外などについては、同様の治療が地域で受けられるか確認した上で、必要に応じて家族と相談している。	利用者、家族の意向に添ってかかりつけ医を決めている。市内であればかかりつけ医への受診に同行して、結果を家族に報告して情報共有するなど、適切な医療が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は配置しておらず、不安があればかかりつけ病院にかかるようにしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は、ホームでの暮らしぶりや周辺症状への対応方法等を引き継ぎしている。また、極力面会に行って不安にならないように配慮している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	明確な方針はないが、事業所が介護できる範囲を状態に合わせて説明し、必要に応じて医療機関と連携して事業所での生活が継続できるように努めている。	入所時に重度化時に事業所ができる範囲を説明して納得を得ている。差し迫った時には早めに医師・家族と連絡を取り、今後の方針を話し合い、相談にのりながら医療機関や施設を紹介するなどの支援をする体制がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練については、一部の職員に留まっている。実践力については、十分とはいえない。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練は実施しているが、実践的とは言えず、地域の協力までには至っていないのが現状。	一階施設と一緒に、消防署の協力を得て年2回、日中と夜間の火災を想定した避難訓練を実施している。訓練に地域住民の協力・参加を呼び掛けているが協力を得るまでには至っていない。	災害時にどのように建物2階から外までスムーズに避難するかを、具体的な想定と実践的な訓練を通じて全職員が身につけるとともに、運営推進会議を通じて地域住民の参加・協力が得られるように努めることを期待する。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け一つで利用者の尊厳やプライドが傷つくこともあることは理解しているが、実行できていない場面があり、説明をして個々に反省をしている。	理念に「人として尊厳を大切にします」を掲げて、利用者の尊厳や誇りを大切にケアに努めている。トイレの声掛けは利用者の耳元で行うなどプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定ができない方については、本人本位の考えで選択肢を出し、自己決定へと働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れの中で特に日課などは設けず、その時ごとの気持ちや行動を優先している。食事など大まかな時間は決まっているが、時間差で食べる人もいる。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに即した選択ができるように支援している。理髪利用時は、髪染めやパーマ・カット・顔剃りを希望に応じて実施している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや食材はすでに決まっているが、その中で調理方法や味付けを変更する等の工夫をしている。	本部でメニュー作成と食材購入、事業所が調理をするが、行事食は利用者の食べたいものを提供している。近くで採れるふきのとう、ワラビ等旬の山菜を利用して季節感を出している。職員と一緒に会話をしながら食事を楽しみ、調理や後片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に水分や食事量の記録を取り、摂取量に応じて補食の提供など偏りがないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔内の状態や出来る力に働きかけて支援している。毎食後が難しい方については、寝る前の実施に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットやリハビリパンツを使用しているも、時間を見ながらトイレでの排泄に努めている。また、羞恥心への配慮へも意識している。	記録により排泄パターンを把握して、適時の声掛けとトイレ誘導によって自立排泄を支援している。個々の状況によりパットやリハビリパンツを使用している。今のところおむつ使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせて乳製品などを取り入れ、自然な排便に繋がるように支援している。また、最低限の下剤使用になるよう調整している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯の固定はあるが、最低週2回の入浴や身体状況や希望に合わせて回数を調整している。	週二回を基本として、適宜状態や希望、たとえば仲の良い利用者同士の入浴に対応している。嫌がる利用者にも無理強いをせず、脱衣所に音楽を流し、声掛けを工夫したりしている。入浴剤を3種類用意し、匂いや色・季節感を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前・午後とわずその時の体調や希望に合わせて、休憩をとってもらっている。個々の生活サイクルを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報はすぐに確認できるようにしているが、全職員の理解には至っていない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出したり、利用者同士の交流を支援している。また、移動図書館や訪問販売を利用することで楽しみに繋がっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や必要時には外出できる体制である。家族の希望で自宅への外出を支援している。	日常的に銀杏並木や小公園への散歩を楽しみ、個人的な買い物や日用礼拝に行く利用者もいる。またドライブで道の駅・花見・紅葉狩りへ行くことが毎年の恒例となっている。運動と気分転換のために外出の機会をなるべく多く作っている。				
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は現金を所持している方はいない。					
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からきた手紙を手渡したり、電話を取り次ぐなどの対応とどまっている。					
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間で過ごす方が多く、個々の相性を考慮して隣り合った利用者同士が自然な形で過ごせるように努めている。	明るい居間には利用者が作った貼り絵や行事の写真が飾られている。大きな窓から石狩川の花火など季節の風景が楽しむことができ、利用者は思い思いの場所で、好きなことをしながら一日を過ごしている。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓席以外でソファがあるが、個々で自然と座る場所が決まっている。ブラインドにはなっていないが、ヒソヒソ話をしたりして気の合う者同士が隣り合っている。					
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居に際して使い慣れた家具・食器・寝具などを持ち込む理由を説明して、極力持ち込んでもらい安心できるようにしている。	居室は、家族と相談して家具やベッドを配置して、壁には、家族の思い出の写真などを飾って落ち着いた空間にしている。人形や仏壇など馴染みのものを持ち込んでいます。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室の表示をして「わかる力」に働きかけている。動線や安全の確保の為、家具などの位置を柔軟に変えるなどしている。					